

No.1 「滑稽を語る」

吉野香風子（群馬県利根町在住85歳）

こみ上げて来る笑ひ。笑止さ。是は決して作り事でも無ければ何でもない。

腹の底から押し上げて来るものなのである。
今時、こんな殺伐たる世の中に無理をして笑わせようとすれば中途半端なことになり、それこそおかしい話になって仕舞ふ。

この度の、本格的に俳句を滑稽の中に引き摺り込んで行く計画に私は大きな注目をしたい。

俳句をうまく作ろうとして変にむつかしい言葉をな
らべ、それがあたかもうまい人の様に思われている
現代人に俳句の本当を教へるのには「滑稽」の外に
は無い。私もおぼろげには考へては居ても人に呼び
かけて具体化そうと言ふ様なそんな考へはもってい
ない。だからこの計画に心から賛同する訳である。

私もすでに85歳。
さそひこんで見ても一人の厄介者でしか無いかも知
れないが一人の老人を味方に引き入れられた。と
思ってもらへば幸甚である。

余生を遠い若い人達の中に組してもらへる事がどん
なに嬉しい事か、
将来、皆さんも判ってもらへると思ふ。
どうもありがとう。